

AMED理事長賞

統合失調症の原因解明と新しい治療法の創出につながる、シナプス分子に対する新規自己抗体の発見

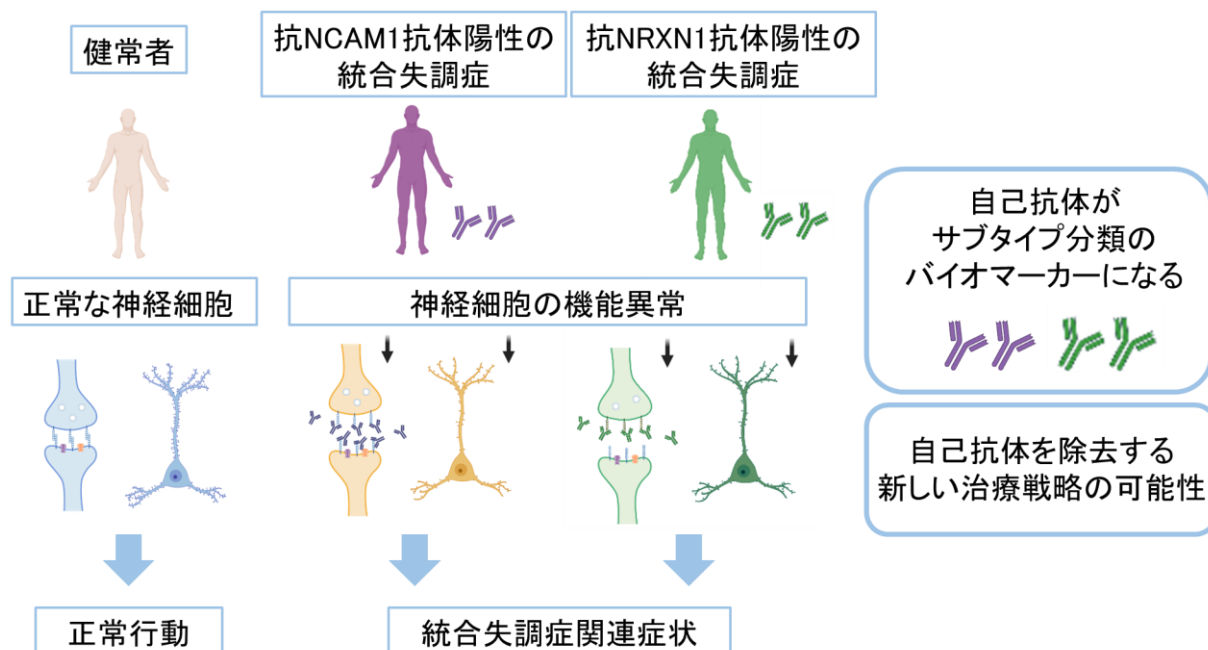
<受賞者>

塩飽 裕紀 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科

精神行動医科学分野 テニュアトラック准教授)

<功績>

統合失調症と診断された患者から脳のシナプスタンパク質への自己抗体を発見し、病態解明および治療への手掛かりを得た。統合失調症患者に対する新たな治療法や、早期発見・治療への展開が期待される。



統合失調症のシナプス自己抗体病態

<概要>

- 統合失調症の患者の一部から、NCAM1^{*1} や NRXN1^{*2} をはじめとした複数のシナプス分子に対する自己抗体を発見、当該抗体はシナプス分子の機能を阻害しさらにシナプスの数を減少させることを明らかにした。
- 患者から単離した当該自己抗体をマウスに投与すると、統合失調症の症状の一部が再現され、当該自己抗体が病態を引き起こしていることが強く示唆された。
- 当該自己抗体の無効化による治験を準備しつつ、さらに統合失調症以外の精神疾患においても、患者の一部から病因と示唆される自己抗体を見いだしており、今後、疾患横断的な治療への展開が期待される。

(*1 : シナプス接着分子 Neural Cell Adhesion Molecule 1、*2 : シナプス接着分子 Neurexin 1)